

同窓会報

平成22年度春季号

発行 宮城県仙台第二高等学校
同 窓 会
仙台市青葉区川内瀬橋通一
番二二一五六一(直通)
印刷 創文印刷出版株式会社
仙台市青葉区春日町八番三四号

巻頭言

会長 西澤 潤一 (中44回)



東洋の教育も人作りであり、先生方は自ずと寄っては生徒の才能とその伸びについては語り合い、場合によっては成果を誇って自らの教育力を尚んで居られた。このようなものが各校の伝統として語り伝えられたのだと思う。年端のいかない子供達が、これに牽かれて遥か隣の学校に学ぶことすら必ずしも珍しくなかった。新設の学校に於いてすら同様であったから、世の子弟の保護者が平素から指導的立場にある人々の言動に注意し、これらの人々の物の考え方や指導方針などをよく洞察していた。直接出来ない人々も間接的手法を会得して、強固な見識を維持していた。斯くて子弟は、正当な指針を得ていたのである。

現在、積年の進歩の跡と言いたいところだが、逆に豊富な体験を経ていながら、人間の判断は少しも進んで居らず、豊富になった知識は決して優れた判断力である。江戸期における家主の指導力は、現代社会を遙かに上廻っていた。緩慢なる民主化運動は社会を弛緩させ、寧ろ共産圏諸国における家主の指導力に驚かす。生かしていることに一驚する。現実の共産主義の方が、遙かに隷属的だと見えるが、原則的共産主義の確立のための努力に養われた結果と思われる多くの言動に遭遇することとなった。

我等本校の卒業生たるもの、創立以来の優れた先生方の指導に育てられし者達、先ず自ら優れた天分を育てつつ、次代を頼むべき生徒諸君に對しては抜群の指導力を発揮すべきではないか。その状態には底短期間になし得る程のものではない。さればとて、長きに亘って詰らぬ右顧左眈して、長大の速度を要求せられるか

に見えるのは、その当然の帰結に過ぎない。自己の怠慢の結果と自浄すべきことである。先日政界の二代目論が流行した。貧困生活の中では大きな力だった教育優先の考え方は豊穡の時代には害毒を流した。より務めるべきは、教育の本質的議論であった。此処に、教育が「人間を作る」という段階から「知識を与える」乃至は「知識の不足を訴えられた時に補充する」程度の教育に転落した。現実には考える事を知らないから一を聞いて十を知る段階から十を聞いて一を知る程に考えない。考えさせる教育から考えないで話す教育が横行した。従って、今日漸くにして危機を伝えている教育の中なる精神面の文化の凋落振りをも精査すればその落差は卒倒に価するとも言える程に烈しいものとなっていることなるであろう。

兎に角、先ずは、教育が試験に際して尤もらしい答案が書けるように指導するものでもないし、現実から切り離された抽象的な議論を名文句で並べるようにする事でもない。現実社会に對応しているだけの現実を勉強する。しかもそれが融通可能であるだけの基礎と人間の情熱に裏打ちされたものでなくてはならないのではないか。

平成22年度 同窓会総会のご案内

1. 日 時：平成22年7月3日(土) 総会17時(受付開始は16時30分) 懇親会18時
2. 場 所：江陽グランドホテル <地下鉄広瀬通下車 西一番出口徒歩0分>
TEL：022-267-5111
3. 懇親会費：6,000円
4. 申込締切：6月25日(金)
★懇親会費は当日、会場でお支払い下さい。
★出席申込は、下記の申込先に、FAX又は電話でお願いします。
5. 申 込 先：〒980-8631 仙台市青葉区川内瀬橋通1
仙台二高同窓会事務局 TEL 022-221-5651 FAX 022-221-5686
6. 当 番 回 期：高21、33、34、45、46回

この回期の方々は常任委員を中心にご協力をお願いいたします。

《なお、同窓会年会費は総会当日会場受け付けでも御納入可能です。》

同期の方、お誘い合わせの上、
多数ご参加下さい。


仙台二高
創立110周年記念
の御案内


母校は明治三十三年の創立以来本年平成二十二年で百周年となりました。先の百周年の時の盛り上がり等はありますが、十年を一区切りとする祝い事として簡単ながら学校側と連携し記念行事を行う予定です。基本的には余り予算を掛けない方針です。学校側の行事は、諸行事に『百周年』と冠することで行います。また同窓会側の事業として名簿の発行を行う予定です。

次に百周年記念に係わる諸計画等の概要を記します。

宮城県仙台第二高等学校創立110周年記念行事及び事業計画

1 学校行事

- (1) 大運動会 平成22年 4月28日(水)〔雨天のため4月30日(金)に挙行〕 会場：本校校庭
- (2) 芸術鑑賞会 平成22年 6月24日(木) 会場：仙台市民会館
古典芸能〔落語：林家木久扇・林家木久蔵他〕
- (3) 北陵祭 平成22年 8月28日(土)・29日(日) 会場：本校・東北大学川内萩ホール(開会式等)
※以上の行事は「創立110周年記念○○○」という名称で実施する。
- (4) 招待試合 運動部で希望する部については、同窓会として開催を援助する。(三部定期戦)

2 記念行事

- (1) 記念式典 日時 平成22年10月22日(金) 13:00~14:00
会場 東北大学川内萩ホール
- (2) 記念パネルディスカッション
日時 平成22年10月22日(金) 式典終了後 14:15~15:45
会場 東北大学川内萩ホール
- (3) 記念祝賀会 日時 平成22年10月22日(金) 18:00~20:00
会場 江陽グランドホテル
※会費制

*上記(1)、(2)、(3)は実行委員会で詳細を決定するものとする。

3 記念事業

「事業」として取り組む内容は、平成22年度より3年をかけて、PTA(100万)、奨学会(300万)、同窓会(500万)の出資(予定)により基金を創設し、募金等の収入状況を勘案しながら、予め優先順位を設けて、校内環境整備を逐次実現していくものとする。7月総会にて概要を示し、承認を得た上で秋に発表予定。(同窓会名簿発行は次ページ御参照)

4 実行委員会(敬称略)

委員長	同窓会長	西澤潤一				
副委員長	P T A	眞田昌行	同窓会	高橋和男	奨学会	高橋正道
	教 頭	三塚明彦				
委員	同窓会	岡崎正行	中條克浪	尾形昭範	土門高大	関 祐介
	P T A	張替秀郎	遠藤康浩	鈴木孝志	千葉茂実	下山 誠
	奨学会	加藤幹夫				
	教 職 員	教諭 増子進一	戸田慶三	奥山雅敏	伊藤博之	
		菅原 淳	南雲芳則	谷藤正樹	大津 直	

創立百十周年記念「同窓会名簿」の発行について

母校は今年創立百十周年を迎えます。それを記念して学校と同窓会では様々な記念行事や記念事業を予定していますが、その一環として同窓会では「同窓会会員名簿」を発行することとしました。

同窓会名簿は、これまで八十周年、九十周年、百周年と十年おきに発行してきましたが、今回も十年ぶりの発行となります。

つきましては、発行を委託した㈱サラトから情報確認のハガキが、6月中旬以降順次会員皆様の元に届きますので、趣旨をご理解の上、ご協力をお願いいたします。

内容は、氏名・住所・勤務先等ですが、個人情報保護の観点から、項目ごとに名簿への不掲載も可能としています。

同窓会では会報や会費納入通知の送付等にも使用しますので、同窓会事務局のデータベースにはなるべく多くの情報を提供いただきたいと思います。

お手元に届いたハガキの訂正記入欄には、訂正のある項

目のみご記入の上、不掲載希望の場合は、項目ごとに「不掲載」とご記入ください。返信用ハガキを返信なさらなかった場合は、お手元に届いたハガキの内容がそのまま掲載されますので、ご注意ください。

(左記サンプルをご参照ください。)

なお、部活動欄ですが、在学中に在籍していた部・クラブ・愛好会等の名称を記入してください。その際、野球やテニスなどは硬式・軟式を区別してください。また、ハガキには名簿購入

予約のほか、賛助金・広告掲載の申し込み受け付けも記入することになっていきますので、お忘れなく。名簿発行は平成二十三年三月を予定しており、価格は一部三、八〇〇円(送料・税込み)の予定です。

※㈱サラトは、P(プライバシー)マーク取得済みの企業です。Pマークとは、(財)日本情報処理開発協会(経産省の外郭団体)が「個人情報保護に関する保護措置の要求事項(JISQ15001)」に準拠していることを条件に付与し、使用できるものです。㈱サラトは、全国一、六〇三校、県内三五校の同窓会名簿発行を担当した実績があります。

確認はがき

110309

名簿に掲載を希望しない項目は該当欄に「不掲載」とご記入ください。なお会費発送にも関係しますので「不掲載」に関わらず住所等の変更がある場合は必ずご記入ください。

フリガナ	姓	名	住所	名
氏名	()	()	()	()
〒	()	()	()	()
〒	()	()	()	()

ご本人がご逝去の場合 ご日付 昭和・平成 年 月 日

申込者氏名

名簿 3,800円	名簿作成賛助金 10,000円	広告掲載	名刺広告
-----------	-----------------	------	------

インターネットでも変更・予約できます!

創立110周年記念版 同窓会名簿作成についてのお願い

このたび、創立110周年を記念し、同窓会名簿を作成する運びとなりました。同窓会活動を発展させていくためには、会員相互で連絡をとりあうことが大切であり、会員名簿は必要不可欠なものとご理解いただければ幸いです。

平成23年3月下旬発行 A4判(約830頁) 3,800円

名簿の内容 収録者…更新を含め、創立から現在までの同窓生約29,000名
掲載項目…氏(正姓)名・マ・現住所・☎・勤務先

あなたの予約が名簿作成経費に充当されます。ぜひご協力ください。

会員名簿は同窓生のみへの完全予約限定出版です。名簿作成賛助金、広告掲載へのご協力もお願いします。

受付時間 9時30分～16時(土曜・日曜・祝日を除く) 0120-957-760 受付No.(110309)

郵便往復はがき

料金別納郵便

往信

宮城県仙台第二高等学校同窓会
〒980-8631 宮城県仙台市青葉区川内瀬橋通1

●同窓会会員名簿発行(平成23年3月下旬)のお知らせ●

フリガナ	姓	名	住所	名
〒	()	()	()	()
〒	()	()	()	()

ご返信がない場合はお送りした内容で名簿掲載いたします

郵便往復はがき

9 8 0 - 8 7 9 0

655

仙台支店 承認

宮城県仙台市青葉区川内瀬橋通1
宮城県仙台第二高等学校
同窓会事務局 宛

9808790 655

連絡のとれない方がいます

同窓会などを開いた時の住所録をお持ちの方はお知らせください。後日送付用の封筒をお送りします。右面のお問合わせ電話でも受け付けています。

3年以内の住所録を
 持っています

お送りいただいた同窓生の住所へは必ずはがきを発送し、名簿に掲載していただくの記録をおこないます。

応援歌探訪 第一回

母校も平成二十二年で創立百十周年を迎えた。現在、仙台二高には旧仙台二中時代からのものも含め応援歌が十一曲ある。校歌は勿論のこと応援歌も校風や伝統の一角を成している。創立百十周年を当年迎えるに当たり、長年歌い継がれて来たこれらの歌が創られた経緯、作詞者、作曲者等を改めて探訪するのも意義深きことと考えている。

過去にも同窓会報にて取り上げられたことがあるが、記録や関連資料というものは時間が経つ中で散逸する危険に絶えず曝されている。今回百十周年という節目に際し改めて取り上げたい。

◇ 会報10号（昭和五十二年）によるとこの「対一高戦歌」は大正十三年当時八年ぶりに復活した対一中野球戦のために

対一高戦歌

一、古き都の春秋や

過ぎにし夢は何かせん

浮華文翁の風荒れて

嗚呼影寒し五城楼

巍然立ちたる北陵の

健児の意気を今ぞ知れ

二、嗚呼独眼竜政宗が

雄図の心今にして

わが北陵の健男児

決背扼腕ゆく所

勝たずば止まぬこの意気を

いざ戦わん晴戦

作られたものである。作詞者は岩崎直砥先生（当時野球部長・博物担任）であり、凱歌の作詞もなされている。（応援歌考中30回 後藤敏道）元歌は、旧制第一高等学校（現東京大学教養学部の前身）柔道部部歌である。旧制第一高等学校柔道部部歌は『時乾坤の』と言う名前が明治四十三年新居一郎の作曲である。そのメロディは当校の対一高戦歌とそっ

くりであるものの、中盤抑揚の違う箇所がある。恐らく元歌としては同一だったのだろうが、当校にて歌い継がれている間に微妙に動いて行き現在の抑揚となっているものと推察する。最近ではインターネットでも旧制第一高等学校の寮歌等に接することが出来るので、御試聴も可能である。

『対一高戦歌』仙台二高同窓会公式サイト
<http://www.sendainiko-dousoukai.com/sum/song.html>

旧制第一高等学校柔道部部歌『時乾坤の』第一高等学校ホームページ
<http://www6.ocn.ne.jp/~kohryoh/ryokao00.html>

（何れも平成二十二年五月現在）

今後、他の曲についても順に取り上げる予定である。

◇ 資料等を御提供下さった方々に本誌上を借り谢意申し上げます。尚、応援歌等に関する資料を求めています。同窓会事務局等に御連絡頂ければ幸いです。



昭和50年5月定期戦
定期戦 PR 行進
一高と並んで東一番丁を
行く（南町通交差点）



昭和50年5月定期戦
定期戦二高応援席
巨大メガホンにて一高を
野次る（宮城球場）

卒業生のアルバムから
昭和50年5月定期戦
二高勝利の瞬間
外野ではOBらの
ストーム（宮城球場）



昭和48年5月定期戦
二高応援団人文字 NIKO（宮城球場）

創立百十周年

大運動会開催

去る四月三十日（金）、雨のため二十八日から順延されていた恒例の大運動会が薫風・快晴のもと、校庭において盛大に行われた。

午前九時に開始された入場行進に続き、生徒会長佐藤葵さんの開会挨拶、体育委員長鈴木祥恵さんによる元氣溢れる選手宣誓、そして十一種目に亘る競技に男子生徒、女子

生徒ともども熱心かつ果敢に挑戦した。

今年の運動会は、「創立百十周年記念行事」の一環となっており、生徒達も例年になく特別な思いを込めて競技に臨んでいたような印象であった。

またこの日駆けつけた多くの保護者や卒業生などで応援席も大賑わい。競技の途中で

も参加する綱引き大会や玉入れ競技なども行われ、新旧入り乱れての和気藹々とした競技風景も展開された。

今年の四月の気温は低めに推移し、市内の桜の満開時期も大幅に遅れたため、校庭の桜も

ちょうど



入場行進 女子生徒に掲げられる校旗



綱盗り 敵陣の引き手を剥ぎ取っても良い

満開の時
季を迎えていた。時折吹き寄せる心地良い春風に運ばれてくる花吹雪が、行く春を惜しむかのように今年の大運動会を美しく包み込んでいた。午後三時過ぎ、予定していた全ての競技も終了し、後片付けが終わった静かな校庭には生徒らの歓声の余韻がいつまでも残っているかのよう



マスゲーム
昭和43年から続く
競技

校庭の桜

元校長 高橋清久先生御逝去

昨年十二月二十日二高第14代校長をお務めになった高橋清久先生がお亡くなりになりました。先生は大学御卒業後その御生涯を宮城の教育に捧げられ、特に二高においては教諭、教頭、校長と総ての立場をお務めになりました。その真っ直ぐなお人柄と行動力から多くの卒業生に「せいきゅう先生」と慕われ、そのみならず他校の関係者からも敬愛されていきました。特に本県の県立高校の一律共学化問題に際しては自ら先頭にお立ちになり共学化反対活動に尽力

高橋清久先生 御経歴

- 大正10年10月26日生
- 昭和20年9月25日 東北帝国大学工学部航空学科卒業
- 昭和20年10月25日 東北学院中学校教諭
- 昭和29年3月31日 東北学院高等学校教諭退職
- 昭和29年4月1日 宮城県築館高等学校教諭
- 昭和31年4月1日 宮城県仙台第二高等学校教諭
- 昭和37年4月1日 宮城県白石工業高等学校教頭
- 昭和43年4月1日 宮城県仙台第二高等学校教頭
- 昭和45年4月1日 宮城県岩ヶ崎高等学校校長
- 昭和47年4月1日 宮城県築館高等学校校長
- 昭和52年4月1日 宮城県第一女子高等学校校長
- 昭和55年4月1日 宮城県仙台第二高等学校第14代校長
- 昭和57年3月31日 退官
- 表彰歴
 - 昭和50年11月3日 宮城県教育功績者表彰（永年勤続者表彰）を受ける
 - 昭和56年11月25日 教育功績者として文部大臣表彰を受ける
 - 平成5年4月29日 勲四等瑞宝章受章

若き日の高橋(ホーデン)先生を偲ぶ

高9回 麻喜 宏雄

年末も押し詰った日、同窓会の佐藤副会長から、更に護国神社の田中君から、先生の訃報を知らされ、御息の康弘君に御事情確認しては、遠く奈良の地から御冥福をお祈りするだけでした。

『おい！麻喜!!おまえがあれ程儼に喰い下って自分の意見を押し通した理由が相分った。』

昭和三十一年築館高校から二高に転任されて来た高橋先生。誰が名付けたか「ホーデン」のニックネームで二高の石廊下を皮底のスリッパで豪快に闊歩なさった三十四才の青年教師は、従来の二高にはなかった清風を巻き起こしたものでした。

「にきび面」の生徒がズボンのポケットに手を差し込んでみると「こら！握り金玉を止めろ！」の叱責に、思はず不動の姿勢になった五十数年前の高校青春時代を思い起こさ

せてくれます。

先生は赴任後直ちに三年E組の担任になられると同時に、クラブ活動のサッカー部の部長になられたのであります。私自身、先生の授業を受けた事はなく、サッカー部長と応援団長としての出会いが、先述の『おい！麻喜!!...』の伏線でありました。

四月に新入生を迎え、連日の応援練習が蔵王池横の前庭で行われ、時折顔を出されては「こうやるもんだ！」と、応援旗を両手で持っては全身で振るクラシックススタイルに全校生徒の笑いを誘い、緊張した練習の中に一時の安らぎを与えて頂いた計いを感じたものでした。

恒例の大運動会の後、五月連休をはさんで対一高野球定期戦が行われます。折しも、一方では六月初めの県高校総合体育大会の予選が競技種目毎に各地で行われだしました。先生との本格的出合いはこの時でした。

団長の私は、応援団幹部に、三・三・七拍子をメインとする『拍手リーダー』に、軽い身のこなしをするサッカー部のゴールキーパーをこなす鈴木

木守君を登用し、連日の練習は彼を中心に完成されたものでした。ところが、対一高野球戦の当日にサッカー部の予選が岩ヶ崎高校にて同校と行われる日程が判明したのです。

サッカー部長の先生宅に鈴木君を『拍手リーダー』にとお願いに参上しました。鈴木君本人を伴い、幹部長の故杉本君と三人の往訪でした。先生との会談は二時間以上に及び、

「鈴木はゴールキーパーだ！断じてサッカーの試合を優先すべきだ！」御説を曲げません。私は、対一高戦の歴史の重みを説き、応援団として当日は「彼が絶対必要だ！」の繰り返しました。鈴木君は無言で俯いたまま。然し乍ら私と同席している事自体が、サッカー部には申し訳ないが、対一高戦を優先させたい気持ちがあり在りです。

長時間に亘る激論は、私の強い「談判」、先生は遂に「命令」とまでになり、一歩も譲らぬ平行線でした。二時間以上も経った頃、先生は「俺は最後まで反対した！然しお前が『理り』に来たことだけは認める！」。私は「す

みませんでした。ありがとうございます。双方の会談は「お互い一歩ずつ」の御挨拶と共

一勝一敗で月曜日の決勝に勝ち、評定河原から二高への凱旋の途中に、先生からの冒頭の『おい一歩ずつ』のお言葉でした。鈴木君共々最敬礼の御挨拶と共に、対岩ヶ崎高校との勝利を告げられ安堵したものでした。対一高戦という舞台は、伝統を重んじ受けついでいく姿勢を学び発揮させてくれました。

後年、母校の共学化推進に対しては堂々と県教育界の大先輩として「宮城の別学

は本県の伝統であり文化である」の論陣を張られ反対運動の論客として、我々のリーダーとして活躍して頂きました。

共学になった仙台二高であっても、男子、女子、それぞれ立場から、名門仙台二高の歴史の重みを認識し、その文

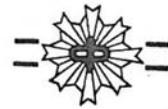
化を学ぶものと思います。先生の御意志をしっかりと肝に銘じ、吾等後輩が母校を見守り続け度く存じます。

高校時代の青春をみのり多量のものにして頂いた「ホーデン」先生に敬意と共に合掌。

昭和56年7月4日 【2】

同 窓 会 報

第 14 号



「では次に堀見先生のご挨拶をいただきます。」司会の佐藤氏が会の進行を促す。私の隣席の堀見先生は着席したまま、出席者名簿を見ながら

「あのなあ、こういう会場でいつもいってんだが、みんな長い間、会ってないだろう、だから誰が誰だかわからん、それでだいたい先に生徒のほうから自己紹介せいで」と一喝された。一瞬たじろぎかつ苦笑いしながら佐藤氏が板井先生にご挨拶をお願したところ

「私も堀見先生のご意見にしたがっています」という返事であった。かくして、堀見先生のご命令どおりに六十五になる元生徒たち二十九名の自己紹介が始められた。



そげもの

校長 高橋清久

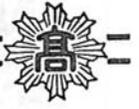
この会は、昭和九年卒業旧制二中第三十四回生の同期会で去る五月十六日(七午後三時からホテルリッチで開かれ、堀見、沢井、板井の三人の恩師と私の四人がお招きを受けている。現校長ということであろう私が挨拶第一号。次いで、八十才の沢井潤先生が現在なお返子開成学園理事および名譽校長として活躍されていること、そして今後とも元気に働いてゆく覚悟を張ったこと、年令を感じさせぬ若い容姿と限りなく生き抜かんとする意欲に、元生徒たちと私をひたすら傾聴、話し終えられたときは、感嘆のさわめき。

「そのまゝ、その直後、堀見宗男先生(八十一才)が司会進行破壊発言を行ったので、先にとりの席で、私は「そげもの」といわれた。然である。

敗戦後三十二年、戦争のない日本は経済的に大きな成長をし、過剰ともいえる物質文明に恵まれてきた。一方、多くの男が男として最も大切な精神的なもの、誇り、勇気、そして正義感や責任感を喪失し、愛嬌をふりまく軽佻浮薄の徒に堕し、がちである。勇気のあるものが「変りもの」である。元禄時代に酷似している。

堀見先生の一喝には確かに理がある。しかし、かつては、いかに鬼教師であっても、教え子たちの会に招かれると、たちまち柔和な恩師に豹変するものが現代の日本では普通である。老いては理を曲げて子に従うというのであろうか。それゆえに、かえって堀見先生の一喝の価値は極めて高い。六十五才の教え子たちを、生徒として取り扱ひ得る彼こそ現代に生きる典型的な「そげもの」といえよう。二十九人の自己紹介を聞

が、四日や五日ぐらい、多分少すいメシをたべさせられたからといって、不満をぶちまけるような、なまぬい訓練をしていること自体にむしろ問題があると思ふ。だからといってメッコくんを生徒にたべさせることが、よいことでないのは、当然であります。釜やバーナーなど、設備に対する点検管理を学校当局も十分留意していただきたい。これは過日、催された恒例の運動部顧問チームにおける二瓶雄雄監督のテーパーの一部である。



「私も堀見先生のご意見にしたがっています」という返事であった。かくして、堀見先生のご命令どおりに六十五になる元生徒たち二十九名の自己紹介が始められた。

「古来勇士は、大方そげものなり。そげまわり候気情ゆえ、氣力強くして勇気あり」(「葉隠」より) 「そげもの」とは「変りもの」である。勇気のあるものが「変りもの」である。元禄時代に酷似している。

いた後の「そげもの」先生の自由奔放な説教を、私は中座のため、借しくも、拜聴することができなかった。「メッコ」もよく噛んで十分唾液をまぜて、胃袋に送りこめば、消化吸収される。ごくあたりまえのことを二瓶監督は述べたのである。去年の夏の私の行動の誤りを二瓶氏のことばによって悟ったのである。ヒジキにんじん、油揚げ、ゴボウの「油いため」とメニューにはあるのだが、その皿に

「メッコはよく噛んで食べよ。」しかも「メッコは食べさせるな。」この二律背反の命題を主張した二瓶氏は、混迷せる日本の教育に重要な忠告をしている。それは前者の命題が日本の教育理念から削除されているからである。

昭和二十四年から同四十五年三月まで二十一年間、二瓶氏は仕事を終えられてから毎日、己の立身を捨てて二高球児を鍛え育て続けた。全くの無報酬である。去年六月から再び火の通るようなノックを二高球児に浴びせている。ここにまた誇り高き「そげもの」の行動がある。

平成21年度事業報告

Table with 5 columns: Date, Day, Event Name, Location, Time. Rows include 評議員会, 同窓会総会, 同窓会春季号, etc.

平成22年度事業計画案

Table with 5 columns: Date, Day, Event Name, Location, Time. Rows include 創立110周年記念 大運動会, 定例評議員会, etc.

PTA・同窓会 合同新年懇親会報告

平成二十二年一月二十二日(金)、ホテルメトロポリタン仙台を会場にして、恒例のPTA同窓会合同新年懇親会が開催されました。

- PTA研修会 (十六時三〇分) 講師 阿部 芳吉氏 (宮教大副学長)
①開会の辞 (十八時二〇分) 同窓会事務局長 戸田 慶三
②校歌斉唱 戸田 慶三
③挨拶 学校長 庄司 恒一

- PTA会長 吉田 徹
同窓会会長 西澤 潤一
④来賓紹介
⑤叙勲者への記念品贈呈
⑥幹事代表挨拶 吉田憲三郎(高21回)
⑦乾杯 教頭 三塚明彦
⑧祝宴・アトラクション
⑨応援歌斉唱 10万歳三唱
PTA副会長 眞田 昌行
⑩閉会の辞 同窓会副会長 麻喜 宏雄
〈当番回期〉 高21・33・34・45・46回

同窓会入会式厳粛に挙行!

平成二十二年二月二十八日(日)、午前十時より二高講堂において、共学第一期の卒業生である第62回生(三一三名内女子六八名)の同窓会入会式が厳かに取り行われた。

- 62回生の役員は次のとおり(敬称略)。
評議員 添田 敏寛
常任委員 八島 剛
三年一組 樋口 大輝
三年二組 登坂 如恵
三年三組 多田明日翔
三年四組 荒川 和哉
三年五組 花木安羅太
三年六組 穴澤 鉄男
三年七組 元本校おやしの会会長
三年八組

- 平成22年度 学校評議員
権 奇 哲 東北大学大学院 経済学研究科教授
鈴木 邦 夫 地元町内会役員
同窓生(高11回) 豊澤 弘 伸 保護者・宮城学院女子 大学学芸学部教授
吉田 幸 子 元PTA役員
穴澤 鉄 男 元本校おやしの会会長

[一般会計] 平成21年度収支決算報告及び平成22年度予算案

(平成21年 4月 1日～平成22年 3月31日)

(単位：円)

区 分	項 目	予算額 (A)	実績額 (B)	(B) - (A)	平成22年度予算案
収 入	前年度繰越金	1,062,162	1,062,162	0	554,463
	年会費 (人 数)	9,000,000 (3,000人)	7,998,000 (2,666人)	-1,002,000 (-334人)	8,400,000 (2,800人)
	入会金 (人 数)	1,152,000 (320人)	1,126,800 (313人)	-25,200 (-7人)	1,152,000 (320人)
	受取利息	3,000	595	-2,405	1,000
	寄附	0	0	0	
	名簿等売上金	0	0	0	
	その他収入	0	0	0	
	特別会計受入金	0	0	0	1,500,000
	合 計 (C)	11,217,162	10,187,557	-1,029,605	11,607,463
支 出	総会等案内発送費 (発 送 通 数)	2,200,000 (16,000通)	2,130,804 (15,374通)	-69,196 (-626通)	2,100,000
	秋季会報発送費 (発 送 通 数)	2,850,000 (16,000通)	2,457,240 (15,156通)	-392,760 (-844通)	2,400,000
	校内活動助成費	1,100,000	1,000,000	-100,000	1,100,000
	卒業記念品	480,000	498,032	18,032	500,000
	総会旅費補助	250,000	252,980	2,980	250,000
	総会補填 (総会出席者数)	230,000 (150人)	454,892 (93人)	224,892 (-57人)	300,000
	P 同 懇 補 填 (出 席 者 数)	180,000 (150人)	252,076 (83人)	72,076 (-67人)	200,000
	地区総会等旅費	150,000	196,560	46,560	300,000
	地区総会等祝儀	90,000	80,000	-10,000	100,000
	会議費	150,000	95,589	-54,411	150,000
	慶弔費	200,000	170,000	-30,000	170,000
	人件費	600,000	588,080	-11,920	600,000
	事務消耗品費	130,000	105,398	-24,602	100,000
	切手葉書送料	150,000	164,770	14,770	150,000
	電話料	400,000	310,434	-89,566	300,000
	振込手数料	400,000	299,565	-100,435	300,000
	設備費	50,000	27,258	-22,742	50,000
	雑費	90,000	72,721	-17,279	80,000
	旅費	450,000	474,280	24,280	500,000
	教育問題研究費	200,000	2,415	-197,585	200,000
	110周年記念事業費	-	-	-	1,500,000
	特別会計繰入	0	0	0	0
	予備費	300,000	0	-300,000	257,463
合 計 (D)	10,650,000	9,633,094	-1,016,906	11,607,463	
繰越金	(C) - (D)	567,162	554,463		0
残 高 (H22. 3. 31)	現金(事務局)		31,800		
	現金(事務所)		12,562		
	普通預金(七十七)		443,461		
	郵便振込(泉南中山)		66,640		
	郵便貯金(大町)		0		
	仮払金		0		
	借入金		0		
	総会勘定差引合計		554,463		

[特別会計] 平成21年度収支決算報告

(平成21年 4月 1日～平成22年 3月31日)

(単位：円)

区 分	項 目	収 支 決 算 額
収 入	前年度繰越金	20,275,239
	預金利息 (1 年)	64,678
	合 計	20,339,917
支 出	合 計	0
次期繰越金		20,339,917
預金等残高 (H22. 3月末)	定期預金 (七 十 七 銀 行)	20,200,000
	普通預金 (七 十 七 銀 行)	139,917
	合 計	20,339,917

クラブOB会

常任委員化の会則改正

理事 鈴木 誠一（高22回）

同窓会活性化の為に「クラブOB会常任委員化」を提唱してきました理事の鈴木誠一です。この度、評議員会（三月二十七日）で、従来の回期常任委員に加え新たにクラブOB会を常任委員化する「会則第8条第6項」改正案が総会議案として採択されました。これにより正式にクラブOB会が常任委員となる目処が立

ちました。
①クラブOB会常任委員への期待
つきましては、運動部、学部各クラブOB会におきましては、早急に総会を開催していただき、できるだけ実際に、現役のお世話をしている若干名の若手の常任委員の選出をお願いいたします。

②クラブOB会会員相互の連絡調整、周知、広報
「会則改正部分第4号内規」に記してありますように、クラブの持つ連帯感により、クラブOB会の会員相互の連絡調整、周知、広報に努めていただき、同窓会の評議員会において、現実に即した積極的なご議論を期待します。又、クラブOB会の名簿の整備も合わせてお願いします。又、クラブOB会を持たないクラブにおいては、これを機に、新たにクラブOB会を立ち上げてほしいと考えます。クラブ

OB会常任委員により世代間の広がりを持たせ、若い同窓生の声を同窓会運営に反映していきたいと考えます。

卒業回期の横軸とクラブOB会の縦軸によって、同窓会の交流をより親密にし、明るく楽しい同窓会、特に若い人が気軽に集える同窓会にしていきたいと考えます。同窓会が校章の象徴する八徳を体现する場であればと考えます。二高への母校愛へ、ゆるやかに一つに和合するという意味で、同窓会活性化は、①総会

出席人数、②同窓会費納入金額、③評議員会出席人数、の三点で考えます。回期常任委員とクラブOB会常任委員の両輪が、母校と同窓会の発展に必ずや寄与するものと考えます。

左に改正案を示します。尚、現在の会則は会報38号（平成十七年十二月）第17頁を御参照下さい。又は、当同窓会公式サイト <http://www.sendaiko-dousoukai.com/> から『会則・規約』のページを御覧下さい。

報告事項 会則第8条第6項改正案（今回提案）

改正案	現行	改正点
<p>第8条（役員） 6 常任委員 回期常任委員及びクラブOB会常任委員各々若干名 （1）回期常任委員は回期ごとに互選により選出し、会長が委嘱する。 （2）クラブOB会常任委員は、会長が指定したOB会等から評議員会に出席する者とその都度理事会が委嘱する。この場合、クラブOB会等はいあらかじめ評議員会に出席する者を本会に報告するものとする。 （3）常任委員は評議員会において意見を述べることができ。 （4）常任委員は第3条の目的を達成するため、所属回期または所属クラブOB会等の会員相互の連絡調整に努めるものとする。</p>	<p>6 常任委員 各回期ごとに若干名 （1）常任委員は回期ごとに互選により選出し、会長が委嘱する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・回期ごとの常任委員にクラブOB会等の常任委員を加えた。 ・クラブOB会常任委員の新設に伴い、回期常任委員の選出方法に修正した。 ・クラブOB会常任委員の規定を新設した。 ・第2項から第3項へ移項した。 ・第3項から第4項へ移項するとともに、連絡調整の範囲を回期とクラブOB会等の規定とした。

◆会則第8条第6項に関する内規

- 第1号関係
 - 一 回帰常任委員は相互に連絡に努め、異動があった場合はすみやかに本会に報告すること。
- 第2号関係
 - 一 クラブが指定するクラブOB会等は次に掲げる条件を満たすこと。
 - イ クラブOB会等として、あらかじめ本会に届け出があること。
 - ロ 届出の様式は別に定める。
 - ハ 会員名簿を備え定期的に更新していること。
 - 二 クラブOB会常任委員への委嘱は、評議員会当日の受付をもってこれに代える。
 - 三 クラブOB会等から評議員会への出席者の報告は、開催通知への出欠の返信に記載して行う。
- 第4号関係
 - 一 常任委員の行う連絡調整は次に掲げる行為をいう。
 - イ 評議員会及び総会等本会活動の会員への情報提供（実績報告、開催予定等）
 - ロ 会員の对本会に対する意見収集及び集約
 - ハ 会員の名簿管理及び本会への報告
 - 二 回期またはクラブOB会等の総会、懇親会等、活動内容の本会への報告
 - ホ 会費及び寄付金等の納入督促

支部総会 開催報告

関西北陵会

開催報告

小松 寛明 (高33回)

平成二十二年三月十四日(日)、関西北陵会総会および懇親会を開催した(マルビル大阪第一ホテル「マークス」)。庄司恒一校長先生、戸田慶三同窓会事務局長に来賓としてご出席いただき、十六名の会



員が出席した。今回は渡邊安男(高17回)、久保田利通(高19回)、辻實(高20回)の各氏が初めて出席された。渡邊氏ははるばる香川県から来阪された。

総会に続き、筆者が「ダブルポントテ・モーツァルト・18世紀」と題して講演をした。ダブルポントテがモーツァルトのために書いた台本には、18世紀のイタリアの仮面劇(コンメディアデラルテ)とダブルポントテ自身の人生が反映されているのではないか、ということを書いた。

懇親会では前会長の船木良保氏(高4回)の乾杯の音頭で始まり、初参加の同窓生の紹介があった。元応援団副団長の久保田利通氏の力強いエールに続き「凱歌」をともに歌いお開きとなった。

同窓生の動向もつかみづらい状況である。近畿や近隣に在住の同窓生の皆さん、この一帯の大学や大学院へ進学された同窓生の皆さん、ご一報を。総会以外でも度々集まっ

てミニ宴会をおこなっています。

連絡先
会長 星 三男 (高6回)

0797-3111272

小松寛明(高33回)

06-6337-5169

仙台二高ピンペン会(高11回) 「奥の細道踏破隊」 について

三浦 二郎 (高11回)

松尾芭蕉の奥の細道紀行は一六八九年(元禄二年)に達成されました。本年二〇二〇年は、奥の細道紀行三二周年にあたり、我々ピンペン会会員には古希を迎える記念すべき年でもある。そこでこの機会に、今一度青春の情熱をとりもどして、江戸深川の芭蕉庵跡より大垣まで、約二〇〇キロを歩行と車行で踏破する計画をたてました。全行程を18区間に分け、楽しい思い出づくりを会員のリレーで実施します。現在、延五人の参加が見込まれています。我が母校も訪問したいと思っています。県内では、多くの同窓生と出合うこともあると思いますが、その折には応援よろしくお願ひ致します。

連絡先 鈴木邦夫
022-265-2954

編集担当からの御願ひ

―新企画への情報及び原稿の御願ひ

会報編集担当では次の企画を進めております。

一、応援歌探訪

現在、仙台二高には応援歌が十一曲あります。創立百十周年に当たり、これらの歌の創られた経緯、作詞者、作曲者等を改めて探訪するの意義深きことと考えております。校歌のみならず応援歌も校風や伝統の一角を成しております。因みに、校歌並びに応援歌の一部に就いては既に会報40号(平成十九年十二月)及び平成二十年春号(平成二十年六月)に『その一』『その二』として掲載されています。このような解説を応援歌等全曲に及ぼそうというのがこの企画の趣旨で、本号では4頁に「応援歌探訪」を載せた。今後各応援歌等の①作詞者

②作曲者(又は元歌)、③制作時期、④制作の動機などに就いて情報の御提供を短くとも良いので是非お寄せ下さい。

二、卒業生の進学先報告(仮題)「北陵健児の行くところ」(進学編)

卒業して大学に進み大学・大学院在学中の方を対象にします。①今自分の在学してい

る大学の様子②自らの学生生活ぶり③何を学んでいるか等を紹介して下さい。全国に展開する同世代の卒業生にも有効な連絡となります。字数は八百字程度、写真も一枚程度。

三、卒業生の活躍(仮題)「北陵健児の行くところ」(職業編)

既に社会に出て第一線で活躍している卒業生の方が対象です。①自分の働いている分野の紹介②担っている業務の概要③仙台二高・旧仙台二中在学中の経験で社会人になって活かしているもの等を紹介して下さい。卒業生の活躍ぶりが同窓会全般に伝わり人材の多才さも改めて認識されます。字数は八百字程度、写真も一枚程度。

原稿等の送り先
九八〇・八六三一

仙台市青葉区川内瀬橋通一
仙台二高同窓会事務局

FAX 022-2221-5686
電話 022-2221-5651

『応援歌の歴史情報在中』、
『卒業生の進学先報告原稿在中』、
『卒業生の活躍原稿在中』と
封書及び書面に明記願ひします。

同窓会の財政状態ピンチ：

会費納入のお願い

理事会

会員の皆さん、お元気ですか？

同窓会の財政状態はこのところチョット元気が有りませぬ！

同窓会費の納入状況はこのところ年々漸減傾向を辿っており、昨年(平成二十一年度)の会費納入者数は、二千六百六十六人で同窓会報送付人数(約一万五千人)のわずか十八%と、ついにワースト記録になってしまいました。

現在の同窓会の運営はわずか二十%足らずの同窓生の善意によって支えられているのが実状なのです。

一方、支出については、会報関係費用、事務用消耗品費、電話料など理事会の努力でできるものは極力節約と削減に努めています。

今年(平成二十二年)度の会費納入状況が、もし昨年度並みとなった場合は、心ならずも各費用の一律大幅カットに踏み切らざるを得ず、この結果、会報の発行や母校への校内活動助成金、会議費などにも大きな影響が及びかねず、同窓会の活動自体に支障をきたしてしまう恐れが出てきます。

このような事態を避けるためには、今年度は最低でも二千八百人以上の納入者を確保しなければなりません。昨年度比で百四十人増が目標ということになります。また、それでもまだ全体の二十%には満たないのです。

会費の増収には同窓会活動のキーマンである常任委員の皆さんのご協力が欠かせません。今年度は同窓会の会則第八条第六項(常任委員)が改正され、従来の「回期常任委

員」に加えて、「クラブOB会等常任委員」制度が導入される方向です。

この新しい制度はいろいろな意味で、同窓会を活性化するための一環として期待されています。しかしながら、同窓会の活性化はまず財政状態の改善が前提となります。

そのためには、回期常任委

同窓会会費の納め方について

・納入時期

会費の納入期限は、余裕を取って九月末と設定しておりますが、総会の時期である七月を御念頭に納入頂ければ幸いです。尚、今後とも総会(通例七月上旬)の会場でも、一月PTA・同窓会合同新年

・通信欄

会費の振込用紙(払込取扱票)の通信欄を活用し御連絡や御意見などをお寄せ下さい。内容によっては御了解を頂いた上で会報に掲載致します。(理事会)

員の皆さん、クラブOB会等常任委員の皆さん、そして各理事、評議員全員が力を合わせて、各職域や企業・団体における縦・横・斜めのラインを通して、機会あるごとに、お互いに会費の納入を促進して行かなければなりません。また、同窓生個々人に対しては、昨年からの総会やP同懇

などの会場に臨時の「会費納入コーナー」を設け、会費納入の利便性を図りました。会費納入へのご協力をよろしくお願い致します。

お写真の御提供を

会報編集担当

当号から新企画『卒業生のアルバムから』を始めました。各回期の皆様の卒業アルバムは勿論のこと在校時に撮影した写真などの御提供をお願い致します。皆様のお写真は時代時代を物語る貴重な記録であると共に、集約することで潤沢な歴史的資料にもなります。まずは同窓会事務室に御連絡をお寄せ下さい。

FAX 022-221-5686
電話 022-221-5651

平成22年度 年会費 納入率・納入額上位5番

平成22年 3月31日現在

【納入率ベスト5】

順位	回 期	納入率
1	高3回	42.3%
2	高11回	42.0%
3	高4回	40.6%
4	中42回	40.2%
5	高6回	39.4%

【納入額ベスト5】

順位	回 期	納入額
1	高11回	339,000円
2	高6回	264,000円
3	高4回	249,000円
4	高9回	246,000円
5	高10回	243,000円
5	高14回	243,000円

平成22年度在籍数

平成22年 5月14日現在

学年	組	男子		女子		合計
		1組	2組	1組	2組	
1年	1組	28	13	41		
	2組	29	12	41		
	3組	29	12	41		
	4組	28	13	41		
	5組	28	13	41		
	6組	27	13	40		
	7組	27	13	40		
	8組	28	13	41		
	合計	224	102	326		
	入試合格者数	221	99	320		

学年	系	男子		女子		合計
		1組	2組	1組	2組	
2年	文系	1組	26	15	41	
		2組	26	15	41	
		3組	29	10	39	
		4組	29	10	39	
	理系	5組	33	7	40	
		6組	33	7	40	
		7組	22	16	38	
		8組	23	15	38	
	合計	221	95	316		
	入試合格者数	224	97	321		

学年	系	男子		女子		合計
		1組	2組	1組	2組	
3年	文系	1組	22	14	36	
		2組	21	14	35	
		3組	21	14	35	
		4組	32	10	42	
	理系	5組	33	9	42	
		6組	29	13	42	
		7組	31	11	42	
		8組	31	11	42	
	合計	220	96	316		
	入試合格者数	224	96	320		

全体合計	男子	女子	合計
	665	293	958

平成21年度 同窓会費納入状況

平成22年3月31日現在

会報 発送数	口数	納入率	入金額	会報 発送数	口数	納入率	入金額	会報 発送数	口数	納入率	入金額			
中27	9	1	11.11%	3,000	高8	217	72	33.18%	216,000	高36	157	15	9.55%	45,000
中28	11	1	9.09%	3,000	高9	224	82	36.61%	246,000	高37	146	8	5.48%	24,000
中29	16	2	12.50%	6,000	高10	271	81	29.89%	243,000	高38	153	10	6.54%	30,000
中30	15	2	13.33%	6,000	高11	269	113	42.01%	339,000	高39	171	13	7.60%	39,000
中31	15	0	0.00%	0	高12	251	75	29.88%	225,000	高40	173	22	12.72%	66,000
中32	14	2	14.29%	6,000	高13	222	64	28.83%	192,000	高41	180	16	8.89%	48,000
中33	17	2	11.76%	6,000	高14	259	81	31.27%	243,000	高42	200	12	6.00%	36,000
中34	22	5	22.73%	15,000	高15	242	63	26.03%	189,000	高43	198	12	6.06%	36,000
中35	23	6	26.09%	18,000	高16	227	56	24.67%	168,000	高44	194	6	3.09%	18,000
中36	25	6	24.00%	18,000	高17	237	58	24.47%	174,000	高45	220	18	8.18%	54,000
中37	42	10	23.81%	30,000	高18	199	53	26.63%	159,000	高46	221	18	8.14%	54,000
中38	35	7	20.00%	21,000	高19	194	53	27.32%	159,000	高47	240	18	7.50%	54,000
中39	48	17	35.42%	51,000	高20	176	35	19.89%	105,000	高48	235	11	4.68%	33,000
中40	55	14	25.45%	42,000	高21	246	57	23.17%	171,000	高49	251	12	4.78%	36,000
中41	64	24	37.50%	72,000	高22	293	64	21.84%	192,000	高50	230	12	5.22%	36,000
中42	72	29	40.28%	87,000	高23	194	45	23.20%	135,000	高51	234	10	4.27%	30,000
中43	80	28	35.00%	84,000	高24	199	33	16.58%	99,000	高52	229	20	8.73%	60,000
中44	94	27	28.72%	81,000	高25	195	34	17.44%	102,000	高53	253	12	4.74%	36,000
中45	112	34	30.36%	102,000	高26	221	47	21.27%	141,000	高54	256	13	5.08%	39,000
中46	113	28	24.78%	84,000	高27	204	28	13.73%	84,000	高55	272	24	8.82%	72,000
中47	129	44	34.11%	132,000	高28	201	41	20.40%	123,000	高56	267	27	10.11%	81,000
高1	135	41	30.37%	123,000	高29	187	21	11.23%	63,000	高57	285	25	8.77%	75,000
高2	164	50	30.49%	150,000	高30	189	27	14.29%	81,000	高58	283	41	14.49%	123,000
高3	182	77	42.31%	231,000	高31	181	20	11.05%	60,000	高59	293	32	10.92%	96,000
高4	204	83	40.69%	249,000	高32	167	26	15.57%	78,000	高60	289	49	16.96%	147,000
高5	203	74	36.45%	222,000	高33	150	24	16.00%	72,000	高61	303	70	23.10%	210,000
高6	223	88	39.46%	264,000	高34	132	15	11.36%	45,000	合計	14,134	2,666		7,998,000
高7	185	57	30.81%	171,000	高35	147	13	8.84%	39,000					

1口 ¥3,000-

 青色地は納入率上位5位、
 灰色地は納入額上位5位

第65回定期戦、 1対6で敗れる



二高応援席 母校選手の奮闘に声援を送る

平成二十二年五月八日(土)晴天の下、第65回硬式野球定期戦がクリネックススタジアム宮城(県営宮城球場)で行われました。チーム力に勝る一高の前に二高は一―六で敗れ、戦後の優勝回数は両校とも二十八回と追いつかれませんでした。(現在は一戦方式)先攻の二高は一回表、一死から内野安打で出塁した二番下嶋が盗塁で二塁に進みましたが、中軸打線の一打が出ず、



開 会 式 手前が二高

先制なりませんでした。その裏、一高は三番、四番のタイムリーで二点を先取。二回にも二点を奪い、二高の先発白根投手がマウンドを二番手に譲る展開となりました。二高は三回に八番藤澤の二塁打などで一死一―三塁のチャンスを作りますが、あと一本が出ませんでした。四回、五回にも二塁までランナーを進めますが、得点できません。対する一高に、六回と八回に

一点ずつ取られ、〇―六に。最終回、意地を見せたい二高は、先頭の四番柴田がこの日の初安打で出塁、四球と犠打で一死二、三塁と攻め、相手の内野ゴロエラーで一点を返しました。なおも、一、三塁と好機が続きましたが、二者連続三振を喫し、一―六で試合終了となりました。今年の試合展開は投打とも一高が二高を上回った印象でしたが、二高も得点圏にランナーを進めるチャンスを何度

三部定期戦及び 軟式野球定期戦結果速報

今年は硬式野球定期戦の翌週、5月15日(土)に行われました。各部熱戦、激戦が展開されました。(軟式野球のみ5月22日(土)実施)

試合結果

バレーボール	二高 2 - 3	一高	〈負け〉
柔道	二高 1 - 3	一高	〈負け〉
バスケットボール	二高 45 - 81	一高	〈負け〉
軟式野球	二高 10 - 3	一高	〈勝ち〉

二高応援席
二人の幹部は共に女子
(後日 男子二年2名、一年3名入部)



一高応援席 共学化初年女子の歓声が入り交じる

ティングができていければ、勝敗は分からなかったと思います。夏に向けての戦力アップを期待します。
スタンドからの応援は例年通りに白熱しました。二高は三塁側、一高は一塁側でした。一高が共学化初年度で、初め

て両校とも女子を加えた形の応援でした。ことに二高は女子の小菅団長を柱として必死の応援を繰り広げました。応援団OBも四〇人ほどが内野スタンドに集結し、現役に負けじとグラウンドの選手を鼓舞しました。
現役の試合に引き続き、硬式野球部OBの定期戦が行われ、軟式の部は六一三、硬式の部は十六一三で、いずれも二高が勝利しました。

(高30回 高橋 敦)

今春の人事異動

▼転出された先生方▲

和賀 久佳 主幹教諭(国語)

武田 元彦 教諭(物理)

山本 敦 教諭(数学)

金山 秀裕 教諭(保体)

能登美樹子 教諭(英語)

佐々木敬次 主幹事務次長

笹木 周史 技師

高橋 時明 教諭(数学)

二階堂 剛 教諭(国語)

鈴木 正樹 教諭(物理)

村井 靖雄 教諭(数学)

狩野 康子 教諭(保体)

佐藤 芳枝 教諭(英語)

須田兼太郎 教諭(国語)

小林 孝長 教諭(数学)

▼校内昇格された先生方▲

▼転入された先生方▲

柴田農林高

(名取北高)

(石巻西高)

(仙台一高)

(気仙沼向洋高・教頭)

(高校教育課改革推進班主幹)

(加美農高)

(利府高)

(富谷高)

(宮城野高)

(東北大理学研究所)

(築館高)

(仙台向山高)

(松島自然の家)

(情報)

(化学)

鎌田 照治 事務部長

大津 直 事務次長

岡本 紳 技師

佐藤 繁 非常勤講師(情報)

羽田 周平 非常勤講師

豊岡 幹雄 非常勤講師(数学)

マシユロー・ロウ A L T

大友 豊 情報化推進支援員

鳴田 敬一 キャリアアドバイザー

▼退職された先生方▲

鈴木るり子 教諭(国語)

柏谷 正博 教諭(国語)

佐藤 繁 教諭(数学)

仙台二高非常勤講師(情報)

狩野 順一 事務部長

東海林久美 常勤講師(化学)

鈴木 武夫 非常勤講師(情報)

大内 裕之 非常勤講師(物理)

新規採用・本吉響高へ

柳津 大治 キャリアアドバイザー

デイビット・ショー A L T

*キャリアアドバイザー

進路選択などに関する生徒・保護者との相談業務他の仕事を行う。

(宮城県教育委員会平成21年度より実施)

同窓会公式サイト

<http://www.sendainiko-dousokai.com/index.html>

長年の懸案であった公式サイトを平成20年に開設し、評議員会・総会・新年懇親会のお知らせ等を行っております。今後とも内容の充実、リンクの取り付けなど図って参ります。御希望など同窓会事務室にファクスにてお寄せ下さい。FAX：022-221-5686



母校の状況

同窓会教育問題担当 共学化四年目

本校は平成十九年度に共学化され当年で四年目となった。平成十九年度入学生が共学一期生となるわけであるが、去る三月一日三十三名(内女子六八名)が卒業した。卒業回期は高校六十二回となる。

平成二十一年度・二十二年

度と二年続けて生徒会長は女子、当平成二十二年度は応援団長も女子となった。定期戦そのものは戦後一貫して続いており先の五月八日の定期戦は第六十五回となった。(定期戦記事御参照) 共学化の前戦には残念なことに応援団幹部不在の定期戦があったが、その後平成二十年度に幹部が復活し、二高の応援が戻っている。

先の号でも記したが、共学化の二高では男女別学級とはせず各学年八学級に男女ともほぼ均等に配分されている。今年の入試合格者は男子二二一名、女子九十九名、女子比率が三十一%である。(12頁の表参照)

新たな動きとしては、当平成二十二年年度から宮城県公立高校の学区制が撤廃され全県一学区となったことが取り上げられる。戦後の新制高校発足の時期から学区制が敷かれ、特に昭和五十二年からは仙台市部が南学区・北学区の二学区に分けられていたが、これらが総て撤廃されたわけである。

当仙台二高の全県一学区下の応募状況は、定員三二〇名に対して推薦にて六五名合格の後に一般入試定員二五五名に対して定員十一名の応募であった。結果としては、入試当日一名欠席、定員丁度の受験者数ではあったが、二名を不合格とし二名分を二次募集した。恐らく、新制高校となつてからでも最初のことであろう。倍率が限りなく1に近くなつたのは、全県一学区下で最難関仙台二高に対して応募を絞り込んだ結果ではないかと言われている。この学区制撤廃により、仙台一高や旧宮城三女高などの倍率が上昇し、北学区から南学区に移動が起こつ

た形になっている。また、推薦選抜も継続されており、当年度は男子一〇一名応募に対して合格三〇名(合格率三割)、女子は七十二名応募に対して三五名合格(合格率五割)であった。尚、本県のこの推薦選抜制度については目下県教委にて見直しが進められており、現下の見通しでは平成二十五年

度から推薦選抜が廃止される予定である。



さて、市内他校の様子を簡潔に記す。仙台一高は当平成二十二年年度から共学となり、三二六名の合格者の内女子が八二名である。学級編成方法は二高と同じ、全八学級に男女とも各学級に均等配分である。仙台三高(昭和三十八年創立、宮城野区鶴ヶ谷)は平成二十一年度から共学化され全八学級の内理数科(二学級)と他六学級に男女とも配分し、理数科一学級が男子のみの学級編成である。宮城二高(旧宮城一女)は、平成二十年度共学化され、多数派の女子の中で少数派の男子が学んでいる。学級編成は、全七学級の

内理数科の二学級と他二学級

に男子を固め他三学級は女子学級である。仙台二華高(旧宮城二女)は当年から中高一貫の共学となり、こちらも多数派女子の中で少数派男子が学んでいる。学級編成は全六学級の内男子を二学級に配分し他四学級は女子学級である。更に、仙台三桜高(旧宮城三女)も当年から共学化され、こちらも多数派女子の中で少数派男子が学んでいる。新一年生七学級の内男女学級は二学級のみであり、他は女子学級である。

以上の通りこの平成二十二年年度において県立高校の総ての共学化が完了した。平成十三年に出された県立高校将来構想が計画通り推し進められたことになる。これで、旧女子校は総て校名変更となった。

同窓生からの寄贈本の御紹介

●詩集「明日のための生命のエキス」

関 茂 (高19回) 様

●寄贈資料

高5回の樋口秀夫様より『仙臺二中校報』の第一号から第六号を御寄贈頂きました。お兄様の旧二中在校時のものとのことです。

仙臺二中校報

- ・ 第一号 (昭和十四年三月三日発行)
- ・ 第二号 (昭和十四年十月三十日発行)
- ・ 第三号 (昭和十五年三月三日発行)
- ・ 第四号 (昭和十六年三月三日発行)
- ・ 第五号 (昭和十七年三月六日発行)
- ・ 第六号 (昭和十八年三月六日発行)

昭和十年代の発行でありながらA4判の大きさです。記事内容を拝見しますと、「榮の優等生諸君」と題し「尚一番の桂重俊君は二高に入学したるを以て河合賞を授與せられる。」とあり、現下同窓会で御活躍の先輩方の御名前なども散見できます。また、誌面の構成など現在の同窓会報とも一脈通ずるものが感じられます。大変貴重な資料です。御寄贈に御礼申し上げます。(会報編集担当)

平成22年度 大 学 入 試 合 格 者 数 (延べ人数)

国立大学

大学名	計	現役生		浪人生	
		男	女		
北海道大	9	5	0	4	
弘前大	2	0	0	2	
岩手大	5	1	1	3	
東大	文	8	4	2	2
	法	6	5	0	1
	経	16	11	0	5
	教	5	1	3	1
	理	8	5	0	3
	工	44	20	2	22
	医/医	13	6	0	7
	医/保	1	0	1	0
	歯	3	0	0	3
	薬	6	1	0	5
農	15	6	1	8	
小計	125	58	10	57	
宮城教育大	5	2	0	3	

大学名	計	現役生		浪人生	
		男	女		
秋田大	4	3	0	1	
山形大	12	3	2	7	
福島大	1	0	0	1	
茨城大	1	0	0	1	
筑波大	5	2	1	2	
群馬大	1	0	0	1	
宇都宮大	1	1	0	0	
埼玉大	6	1	1	4	
千葉大	7	1	1	5	
東大	文I	3	1	1	1
	文II	2	1	0	1
	文III	2	0	1	1
	理I	2	1	0	1
	理II	2	0	0	2
理III	1	1	0	0	
小計	12	4	2	6	

大学名	計	現役生		浪人生
		男	女	
東京外語大	3	2	1	0
東京学芸大	4	2	1	1
東京芸術大	1	1	0	0
東京工業大	1	1	0	0
東京農工大	3	2	1	0
一橋大	6	3	1	2
横浜国立大	3	2	0	1
新潟大	3	1	0	2
金沢大	1	0	0	1
山梨大	1	0	0	1
信州大	1	0	0	1
静岡大	1	1	0	0
京都大	6	4	0	2
神戸大	1	1	0	0
九州工業大	1	1	0	0
長崎大	1	1	0	0
国立大合計	233	103	22	108

私立大学

大学名	計	現役生		浪人生
		男	女	
青森大	1	0	0	1
岩手医科大	7	0	1	6
東北学院大	17	3	1	13
東北福祉大	1	1	0	0
東北薬科大	5	1	0	4
文化学園大	1	0	0	1
尚絅学院大	2	0	0	2
国際医福祉大	2	0	0	2
自治医科大	2	1	1	0
獨協医科大	1	0	0	1
白鷗大	1	0	0	1
東京歯科大	1	0	1	0
青山学院大	5	0	3	2
北里大	7	0	1	6
杏林大	3	0	2	1
慶応義塾大	21	7	2	12
工学院大	1	1	0	0
國學院大	1	0	0	1
国際基督教大	2	1	0	1
芝浦工大	16	4	0	12
順天堂大	2	1	0	1
上智大	1	0	0	1
昭和薬科大	4	0	0	4
昭和薬科大	1	1	0	0
成蹊大	2	0	0	2

大学名	計	現役生		浪人生
		男	女	
成城大	1	0	0	1
専修大	1	0	0	1
多摩美術大	1	1	0	0
中央大	47	9	1	37
津田塾大	2	0	2	0
帝京大	5	0	4	1
東海大	4	2	0	2
東京医科大	2	0	0	2
東京工科大	1	0	0	1
東京慈恵医大	4	0	0	4
東京農業大	6	3	0	3
東京理科大	56	9	1	46
東邦大	3	0	0	3
東洋大	4	0	0	4
日本大	7	1	0	6
日本医科大	1	0	0	1
日本獣医大	1	0	1	0
法政大	15	3	0	12
武蔵野美大	3	2	0	1
明治大	39	2	2	35
明治学院大	1	0	0	1
明治薬科大	1	0	0	1
立教大	5	1	1	3
早稲田大	42	15	5	22
麻布大	1	0	1	0

大学名	計	現役生		浪人生
		男	女	
神奈川大	2	0	0	2
東京工芸大	1	1	0	0
金沢医科大	1	0	0	1
同志社大	1	0	0	1
立命館大	6	1	1	4
産業医科大	3	0	1	2
私立大合計	374	71	32	271

公立大学

大学名	計	現役生		浪人生
		男	女	
宮城大	8	3	3	2
国際教養大	2	2	0	0
福島県医大	3	1	1	1
高崎経済大	1	0	0	1
埼玉県立大	1	0	0	1
首都大東京	3	0	2	1
静岡県立大	2	0	0	2
公立大合計	20	6	6	8

大学校

大学名	計	現役生		浪人生
		男	女	
防衛大学校	1	0	0	1
防衛医科大	2	0	0	2
航空保安大	1	0	1	0
大学校合計	4	0	1	3

会 員 計 報

1/10 平成21年	12/18 狩野	12/15 安久津俊夫殿	11/3 渡辺 永良殿	9/ 石黒 孝造殿	7/26 岡沼 巖殿	1/30 熊谷 靖彦殿	平成20年	10/8 阿部 博殿	9/25 星 征彦殿	6/2 佐々木栄信殿	平成19年	11/11 佐藤 憲一殿	平成18年	1/24 佐藤 雅己殿	平成17年	12/ 鈴木 忠和殿	7/3 武田 守一殿	平成16年	佐々木一郎殿	平成15年	12/ 石田 定正殿	平成13年	4/28 土屋 文博殿	平成12年	7/28 大内 成久殿	平成元年	12/ 増森 次男殿	昭和57年	6/ 三浦 実殿	昭和56年		
難波 隼象殿	健太殿	津俊夫殿	永良殿	石黒 孝造殿	岡沼 巖殿	熊谷 靖彦殿		阿部 博殿	星 征彦殿	佐々木栄信殿		佐藤 憲一殿	佐藤 雅己殿	鈴木 忠和殿	武田 守一殿		石田 定正殿	土屋 文博殿		石田 定正殿	土屋 文博殿	大内 成久殿	増森 次男殿		三浦 実殿							
中38回	高59回	中32回	高31回	高13回	中35回	高28回		中26回	高15回	高18回		中36回	高15回	中34回	中39回		中44回	高12回		中44回	高12回	中22回	中27回		中27回							
12/14 七字	12/8 酒卷	12/6 半沢	12/1 阿部	11/27 中山	11/12 奥田	11/ 庄子喜代治殿	10/29 片倉 国博殿	10/28 小梁川國次郎殿	10/19 芳賀 繁殿	10/18 沼田 典夫殿	10/9 鶴沼 功殿	10/9 長田 道夫殿	10/8 大石 正三殿	10/5 八木 貞一殿	10/3 小林 将殿	10/ 増井 満春殿	9/28 千葉慶太郎殿	9/9 佐藤 衛殿	9/9 神谷 秀夫殿	8/30 大滝 善順殿	8/24 鈴木 淳殿	8/22 石井 弘一殿	8/11 佐藤 政雄殿	7/ 森 博殿	6/13 大浦 克彦殿	5/ 矢口 親慎殿	3/18 芳賀 秀雄殿	3/16 今野 展安殿	3/6 田上 茂殿	3/5 本郷 嘉男殿	2/6 須藤 長殿	2/3 高橋 有恒殿
孝雄殿	達也殿	巖殿	正美殿	敏康殿	英治殿	中43回	高8回	中40回	中39回	中46回	高4回	高1回	中31回	高15回	高13回	中45回	中46回	高10回	中42回	高16回	中46回	中37回	中40回	高20回	高10回	中35回	中39回	中44回	高15回	中37回	中42回	高8回

叙 勲

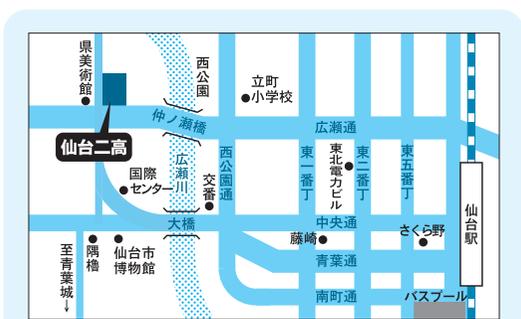
瑞宝双光章
長谷 紘和 (高10回)

瑞宝小綬章
菊地 勝夫 (高7回)
堀篁 章史 (高2回)

12/15 熊谷 芳博殿 中39回
12/19 菅原 則夫殿 高10回
平成22年

2/16 佐藤 桂殿 高7回
3/1 高橋 吉朗殿 中44回
3/3 伊藤 學而殿 中41回
3/31 木戸 次郎殿 中38回
4/21 中嶋 明勲殿 高4回
5/6 目黒 五郎殿 高2回
5/9 安藤 太郎殿 中26回
5/21 古賀 佑彦殿 高5回
5/28 高橋日出丸殿 高3回

・安藤太郎殿 (中26回) 略歴
明治43年1月3日宮城県刈田郡七ヶ宿生まれ、享年百一歳。旧仙台二中から旧制水戸高校を経て昭和九年東京大学卒、住友銀行入社。「都銀懇話会」等で活躍、副頭取を経て昭和四十九年住友不動産社長、同六十年会長。住友不動産を三井不動産、三菱地所と並ぶ三大不動産に育てた『中興の祖』とされる。



二高への交通の便 <仙台駅前から>

▶仙台市営バス・仙台駅前バスプール16番から730、739系統『二高・県美術館前』下車、運賃180円
▶仙台市営市内観光循環バス『るーぶる仙台』・仙台駅前バス乗り場15-3番、運賃250円 (1回券)、600円 (1日券)。但し、瑞鳳殿、大橋、青葉山、八幡神社等とを大きく経由してから二高前に到達、時計回りのみの循環運行です。

注：仙台市電は昭和51年3月末で廃止となりました。昭和51年以前の御卒業で久しく仙台から遠ざかっていた方は御注意下さい。

会費振込は銀行口座でも可能です!

従来、総会案内号(毎年六月発行)に会費払込票を同封し、郵便局でお払込頂いて頂くところですが、銀行も御利用頂けます。銀行口座は次の通りです。

七十七銀行 芭蕉の辻支店
普通口座 宮城県仙台第二高等学校同窓会 会長西澤潤一
店コード 2004
預金口座番号0097845
尚、振込の際には卒業回期(又は卒業年〇年三月)及びお名前を必ず御記入下さい。また、振込手数料を差引いた額の振込額として下さい。

郵便局でも銀行でも足をお運びの際に御利用下さい。

編集後記

次号43号の原稿締切は平成二十二年十月二十日(水) 同窓会事務室まで

中39回の丸谷孝郎様から御手紙を頂き、会報42号(平成21年12月)にて母校共学化の状況に就いての記事を関心をも持って熟読しましたとのことでした。今後とも母校の変容を正確にお伝えしたく存じます。(会報担当)

◇ 二中時代からの伝統の応援歌二つの作詞者がともに、野球部長を務めた岩崎直人砥先生とのこと、岩崎先生に感謝。
大運動会でも、又、野球定期戦の応援でも、随所に女子二高生の活躍が目立ち、頼もしい限りです。今後共学の効果が一層発揮されるよう祈ります。
次号にもさらに多くの支部や同期会等からの報告をお寄せ下さることを期待しています。(高7回小出精)